

経営比較分析表／団体全体（令和5年度決算）

滋賀県

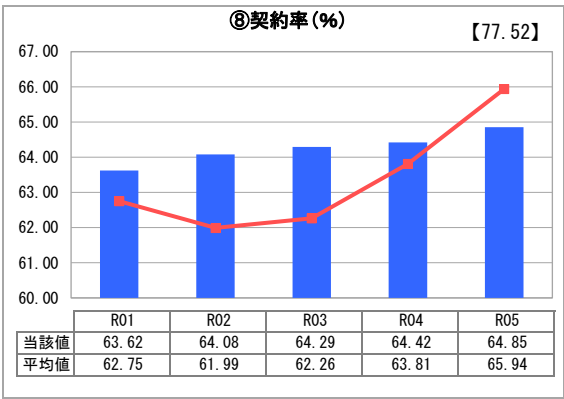
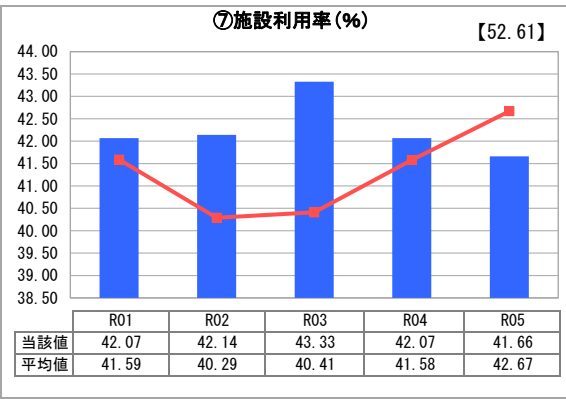
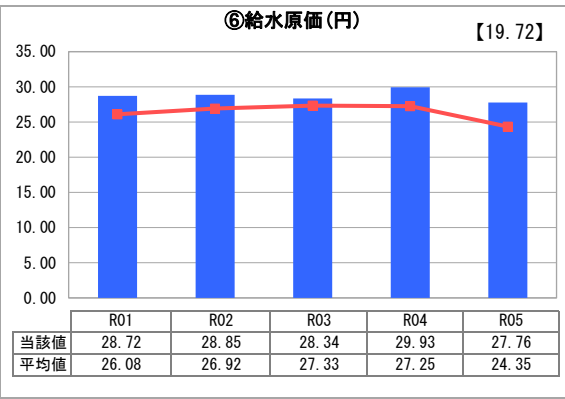
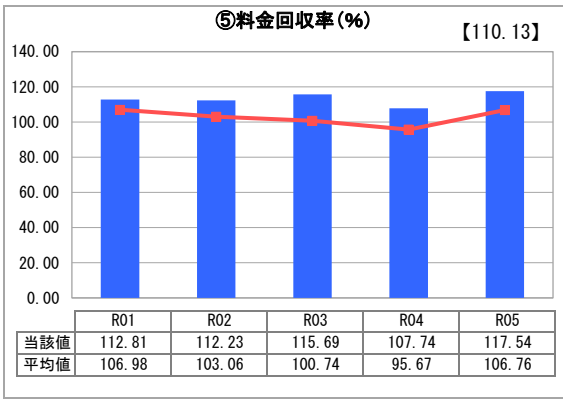
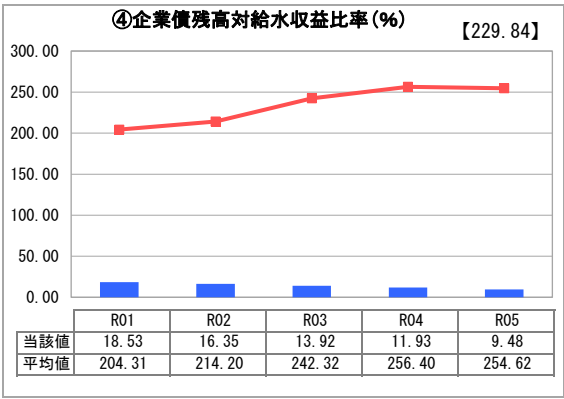
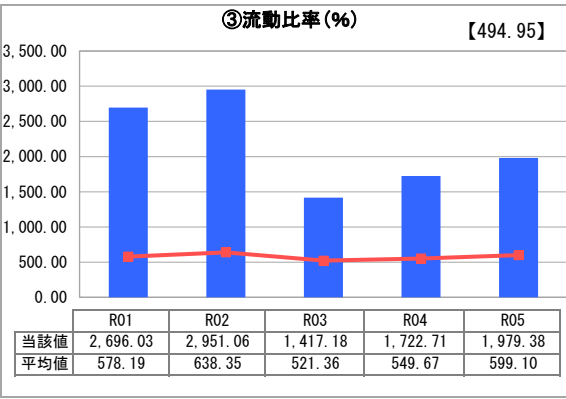
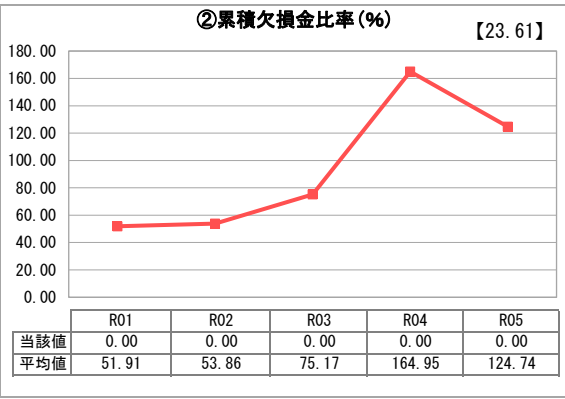
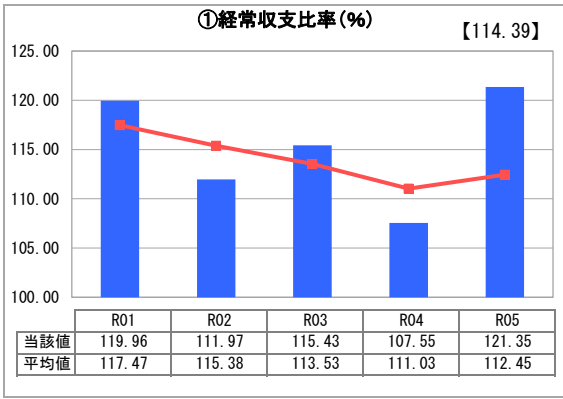
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	122,900	中規模	2	51,196
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	95.5	58	79,697	自治体職員	

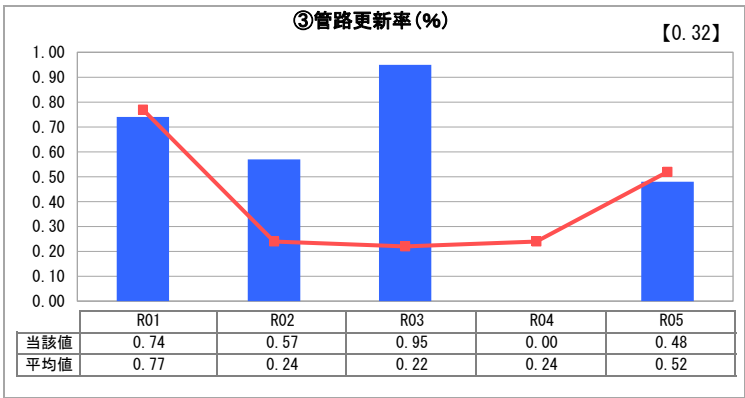
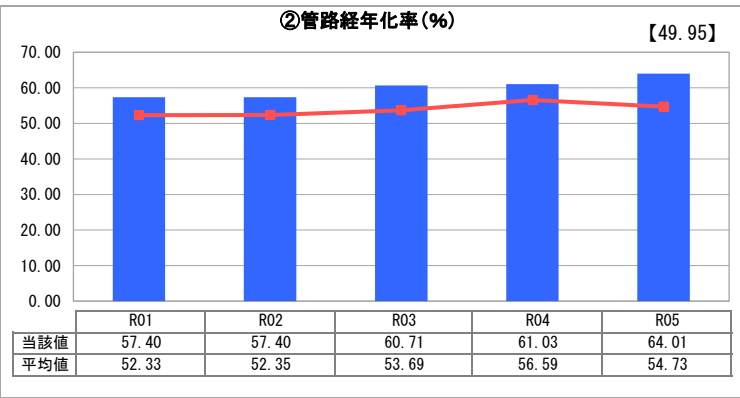
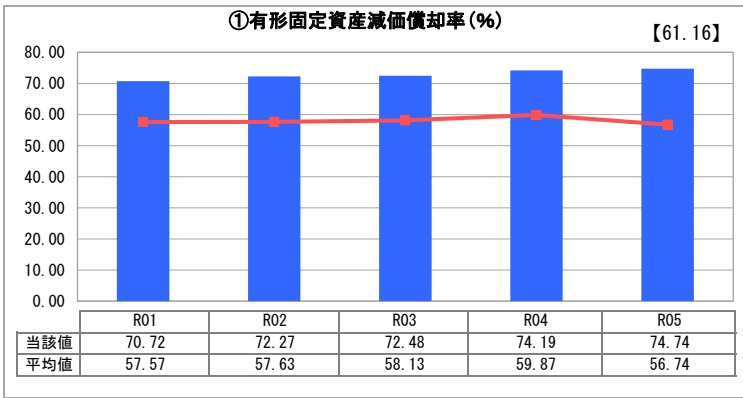
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①「経常収支比率」、②「累積欠損金比率」、③「流動比率」、④「企業債残高対給水収益比率」、⑤「料金回収率」については、いずれも類似団体の平均水準を上回っており、健全な経営を維持しています。

⑥「給水原価」については、前年度より減少しているものの、類似団体の平均値と比べるとやや高くなっています。

⑦「施設利用率」や⑧「契約率」については、類似団体の平均値を下回っており、施設能力に対して送水量や契約水量が少ない状態となっています。今後、新規受水への取り組みや施設規模の適正化等により、一層効率的な経営を進めていく必要があります。

2. 老朽化の状況について

給水開始から50年以上が経過しており、①「有形固定資産減価償却率」や②「管路経年化率」が類似団体の平均値を上回るなど、老朽化が進んでいます。

③「管路更新率」についても、類似団体の平均値をやや下回っていますが、老朽度調査に基づき地盤条件別に更新基準年数を設定することで、計画的な管路の更新に取り組んでいます。

管路更新には、多額の費用と時間が必要となるため、ダウンサイジングなど費用の削減にも取り組み、更新工事の推進に努めています。

全体総括

本県の工業用水道事業は、各指標が示すとおり、概ね健全で効率的な経営が保たれています。しかしながら、施設および管路の老朽化が進んでおり、今後の更新工事に多額の費用負担が見込まれます。また、近年の水道事業を取り巻く環境は大きく変化しつつあり、節水技術の普及による水需要の減少、自然災害の激甚化、昨今のエネルギー価格をはじめとする物価の高騰、さらには老朽化の進む管路や施設の更新工事の増加など、様々な課題に対応していく必要があります。このため、40年間にわたる施設整備計画を定めた「滋賀県企業庁アセットマネジメント計画（平成28年度～令和37年度）」および「滋賀県企業庁経営戦略」（令和3年度～令和12年度）について、令和7年度中に中間見直しを行い、投資と財源のバランスを再検討する予定です。